

# 住民及び学生を対象とした道路計画に関する教育プログラムとその意識調査

国土館大学大学院 学生員 花原 大介  
 国土館大学工学部 正会員 寺内 義典  
 東京大学大学院 非会員 杉崎 和久

## 1. 研究の背景と目的

道路網の整備が遅れている都市地域では、円滑な自動車交通が妨げられ、通過交通が住宅地内の生活道路に流入し、交通事故や騒音・振動などの問題が生じている。また狭隘道路中心の市街地では、緊急車両による消防活動などが困難な地域になっている。安全で快適な街づくりを進める上で道路整備は緊急課題である。

道路整備に際しては、地域住民の理解を得ることが求められるようになってきているが、段階構成によって構成される道路網とそれに基づく道路整備の必要を理解することは難しい。如何にして、技術的な観点からの課題の共有、情報提供を行うかは今後の都市部における道路整備では重要な課題である。

そこで、本研究では、市民や初学者を対象にして実施された東京都世田谷区と国土館大学都市システム工学科における道路計画の考え方に対する理解を深めるために開催されたプログラムを対象として、プログラムの評価、関心内容を参加者意識を通じて把握し、市民に対する道路計画の考え方の理解を深めるプログラムの課題を抽出することを目的とする。

## 2. 教育プログラムの実施

東京都世田谷区では、道路整備方針の見直しのための意見を募集するために、道路計画に対する関心が最も高い区民を対象に「世田谷道づくり区民塾」(以下、区民塾)を開催した<sup>1)</sup>。その中で、通過交通と道路

網計画に関する講座を開いた。区民と国土館大学の学生が参加した。目的は、道路整備がなぜ必要かの基礎的な計画と技術、及び道路の使用と環境・安全問題等について、理解を深めることである。

国土館大学都市システム工学科では、学部一年生を対象に「都市システム工学総論」(以下、都市総論)の中で「道路計画に対する理解を深める」プログラムを平成15年度より実施している。

表1にプログラムの概要、図1、図2に区民塾、都市総論の目的と内容の関係を、それぞれ示す。

## 3. 参加者の意識

### 3.1 調査方法

両プログラムとも各回終了時に受講者に対するアンケートを行った。また、区民塾では、受講者から最終回に区の道路整備に関するアウトカム指標の提案を行った。都市総論では、街の課題を提案した。

以下ではこれらの結果に基づき、参加者の意識を把握する。

表1 プログラムの概要

	開催期間	講座の回数	参加人数
区民塾	平成15年2月1日～6月28日	5回	35名(区民26名、学生9名)
都市総論	平成15年6月5日～6月26日	4回	86名

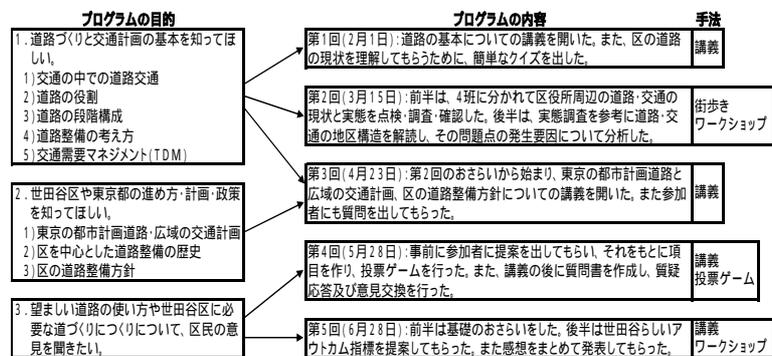


図1 「道づくり区民塾」の目的と内容の関係



図2 「都市システム工学総論」の目的と内容の関係

キーワード 通過交通、道路計画、教育プログラム、段階構成

連絡先 〒154-8515 東京都世田谷区世田谷4丁目2番地1号 国土館大学大学院 TEL 03-5481-3280

### 3.2 調査結果

#### (1) プログラムの評価

区民塾への評価を図3に示す。フィールドワークを行った第2回の評価が最も高く、「有益」と「まあ有益」で80%を占めている。しかし、第3回と第5回前半に「あまり役立たない」と「役立たない」がやや目立つ。いずれも講義形式である。

都市総論への評価を図4に示す。フィールドワークを行った第1回と第3回の評価が「有益」が70%を超えて高くなっている。

いずれもフィールドワークを行った回の評価が高かった。体験的な理解と少人数による密度の濃い対話が深い理解につながり、高い満足度が得られたことが考えられる。

#### (2) プログラムの内容への興味

図5は、区民塾の内容への興味を示しており、どの回も「知っていた又は興味ない」が80%以上を占めている。これは、受講者の多くが既に交通に関心のある市民であることにも起因している。

図6は、都市総論の内容への興味を示しており、フィールドワークを行った第1回と第3回に「さらに知りたい」が多く、両回とも50%を超えている。これは初学者である学生が、体験的な理解を通じて、さらに深い関心を示したと言える。

両プログラムともに、企画段階では初学者が対象であった。しかし、区民塾は、一部受講者に想定よりも交通に関する関心の高い市民が含まれ、受講者間の問題関心や情報レベルのギャップが発生した。その一方で都市総論は、初学者である学部一年生対象であることからギャップがなかったことが結果の差の要因と考えられる。

#### (3) 道路に求める機能

図7は、区民塾最終回で提案されたアウトカム指標の数の、分野別の割合を示す。複数回答可で、75票を得た。居住環境（一般、楽しみ・潤い、安全）、防災、交通、その他の6つに分類される。「交通」を中心としたプログラムにも関わらず、市民の身近な居住環境に対する優先順位がかなり根強く高いことを示している。

### 4. まとめ

区民塾、都市総論ともにフィールドワークを行った回の評価が高かった。これは体験的な理解が可能であることから高い理解を通じた満足度の高いプログラムと言える。しかし、将来の姿や広域の観点といった体験的な理解が難しい内容に関する理解も必要であることから、親和性の高いシミュレーション手法を通じた、より共感しやすい手法の開発が重要である。

また、内容への興味の程度は、区民塾は都市総論に比べ低い。これは教育プログラムの企画段階における受講者像の設定の課題と参加者募集方法などの運営上の課題と考えられる。

最後に、市民が道路に求める機能としては、身近な居住環境への関心が根強く高いことが分かった。そのような中で「交通」に対する関心を高めるためのプログラムの開発が求められる。

#### 【参考文献】

1) 世田谷区建設・住宅部土木調整課：アークポイント「世田谷みちづくり区民塾～実施成果報告書～」、平成16年1月

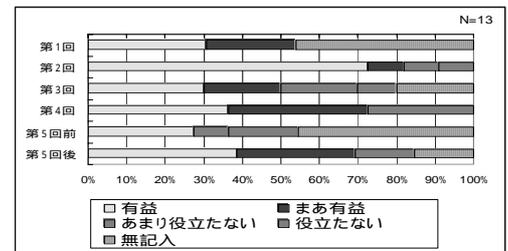


図3 区民塾の評価

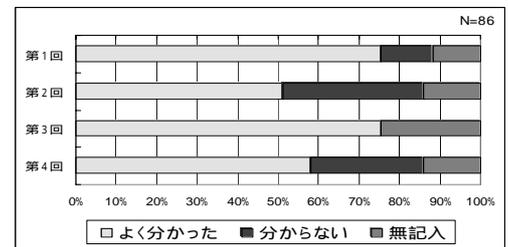


図4 都市総論の評価

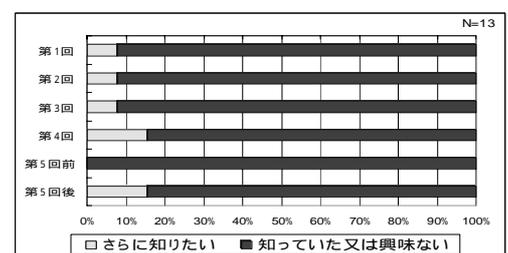


図5 区民塾の内容への興味

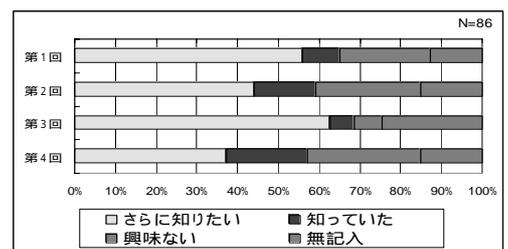


図6 都市総論の内容への興味

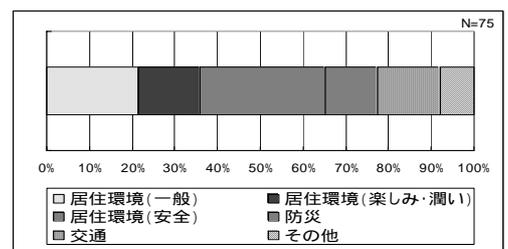


図7 道路に求める機能(区民塾)